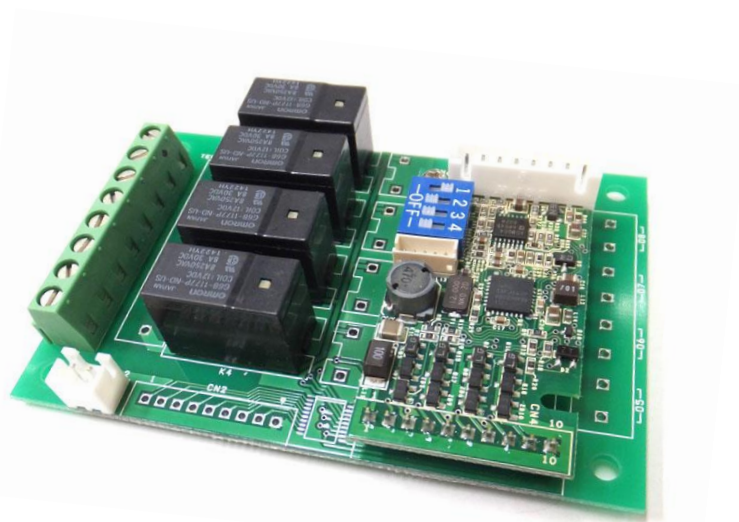


VX-80 プラス TK-9610B使用説明書

(トーンプロセッサ+4回路リレーボード)

■目次

1	概要	1
2	特長	1
3	添付品	1
4	仕様	1
5	コネクタの用途	2
6	ディップスイッチの用途	3
7	各種動作の個別解説	4
8	接続例	9
9	アンサーバックについて	13
10	各種設定	14



注意事項

ご使用にあたりましては電源を入れたままでのコネクタの抜き差しは絶対に行わないでください。故障の原因になります。

■1 概要

・トーンプロセッサユニットVX-80と、リレーボードTK-9610Bを組合せ、用途を「4回路のON/OFF操作」に限定することで配線を簡略化した、実用に即応した組合せユニットです。

■2 特長

- ・ディップスイッチの組み合わせにより、出力動作が選択できます。
- ・8A(定格)の動作確認用LED付きリレーを4個使用しています。
- ・アンサーバックの機能があり、各リレーのON/OFF状態を「送り手側」で確認することが可能です。
- ・小型設計(90mm×60mm)です。

■3 添付品

電源ケーブル	× 1m
信号ケーブル	× 0.5m
基板用スペーサー	× 4



電源ケーブル
2Pコネクタ付赤・黒ケーブル



信号ケーブル
8Pコネクタ付フラットケーブル

■4 仕様

◇使用環境

動作温度範囲 -10℃～60℃(氷結および結露のないこと)
動作湿度範囲 5%RH～85%RH

◇電源部

電源電圧範囲 DC9V～DC15V
サージ電流耐量 2A(8/20 μ s)
エネルギー耐量 20mJ(2ms)
消費電流 40mA以下(DC12V、無負荷)

◇リレー接点部

接点容量 AC250VまたはDC30V以下、5A(抵抗負荷)、2A(誘導負荷)
------	--

◇制御入力部(CN6のNo.1)

入力ローレベル電圧範囲 0.0V～0.6V
入力ハイレベル電圧範囲 2.7V～5.0V
入力プル・アップ抵抗 10k Ω ±5%

◇ドライバー出力部(CN6のNo.3)

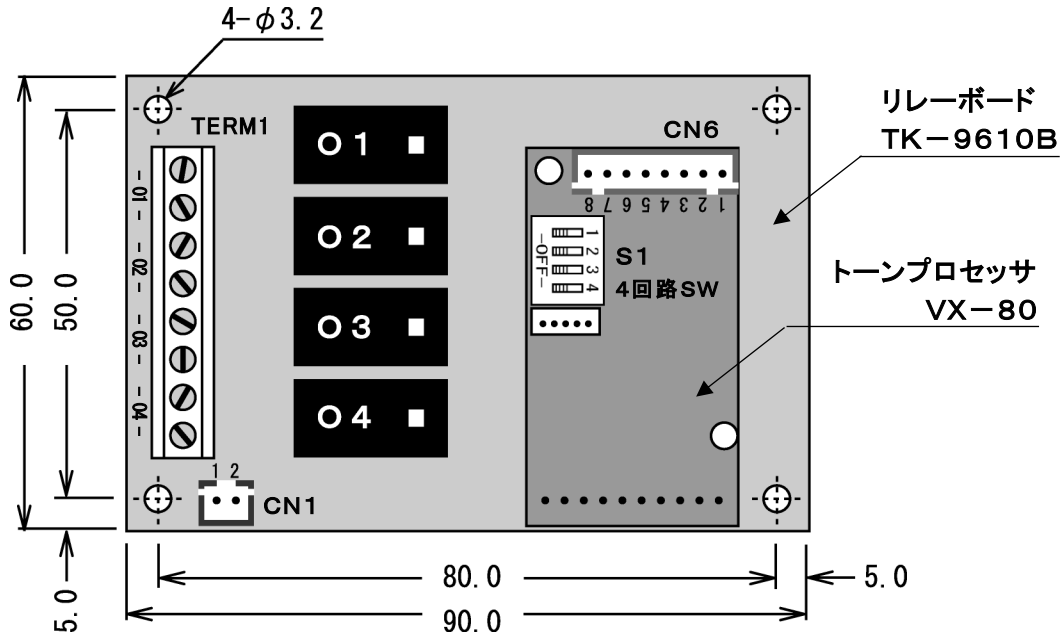
許容負荷電圧 24V
許容ON電流 100mA
ON抵抗 4 Ω 以下

◇信号インターフェース部

許容入力電圧 ±75V(差動電圧)、±150V(同相電圧)
入力検出電圧範囲 6mVrms～775mVrms、-42dBm～0dBm(600 Ω 換算)
入力インピーダンス 1M Ω 以上
許容出力バイアス電圧 0V～5V
最大出力電圧 1Vrms、-3dBm(600 Ω 換算)
出力インピーダンス 65 Ω 以下(300Hz以上)

◇その他

外形寸法 W90mm×D60mm×H15mm



【図4-1】

■5 コネクタの用途

本ユニットには、電源入力用コネクタ(CN1)、制御接点出力(TERM1)と、信号入出力用コネクタ(CN6)があります。

【表5-1】 CN1 電源入力

CN1	ピン番号	信号名
	1	電源入力 DC 12V
	2	GND

【表5-2】 TERM1 リレー接点出力

TERM1	用途	備考
	リレーO1の接点出力	a 接点
	リレーO2の接点出力	a 接点
	リレーO3の接点出力	a 接点
	リレーO4の接点出力	a 接点

【表5-3】 CN6 信号インターフェース

CN6	ピン番号	信号名	備考
	1	BUSY信号出力遅延入力)	AGND (0V) レベルの間信号出力を遅延する
	2	AGND	EMI除去フィルターを通してGNDに接続
	3	PTT (信号出力中出力)	信号出力中ON (0V) になり、それ以外はOFF (オープン)
	4	AGND	EMI除去フィルターを通してGNDに接続
	5	AOUT (トーン信号出力)	
	6	AGND	EMI除去フィルターを通してGNDに接続
	7	AIN+ (トーン信号+入力)	差動アンプ (+)
	8	AIN- (トーン信号-入力)	差動アンプ (-)、不必要なときはAGNDに接続

■6 ディップスイッチの用途

本ユニットには、設定により動作変更が可能な、4回路ディップスイッチ(S1)があります。

以下に標準的な10種類の動作(① ~ ⑩)とその設定一覧を示します。

ユーザー仕様によるカスタマイズしたものを出荷可能(別途設定変更手数料が必要)です。

表6-1 ディップスイッチ(S1)設定による標準動作一覧

ディップスイッチNo.と4回路の ON/OFF 設定					動 作 (詳細は次ページ以降に順次解説)
設定No.	1	2	3	4	
0 	OFF	OFF	OFF	OFF	① ワンプッシュ(DTMF) + トーンアンサーバック
1 	ON	OFF	OFF	OFF	② ワンプッシュラッチ(DTMF) + トーンアンサーバック
2 	OFF	ON	OFF	OFF	③ メモリー照合ラッチ(DTMF) + トーンアンサーバック
3 	ON	ON	OFF	OFF	④ メモリー照合ワンショット(DTMF) + トーンアンサーバック
4 	OFF	OFF	ON	OFF	⑤ メモリー照合ラッチ(DTMF) + DTMFアンサーバック
5 	ON	OFF	ON	OFF	⑥ メモリー照合ワンショット(DTMF) + DTMFアンサーバック
6 	OFF	ON	ON	OFF	⑦ メモリー照合ラッチ(FSK) + FSKアンサーバック
7 	ON	ON	ON	OFF	⑧ メモリー照合ワンショット(FSK) + FSKアンサーバック
8 	OFF	OFF	OFF	ON	⑨ ワンプッシュ(DTMF)
9 	ON	OFF	OFF	ON	⑩ ワンプッシュラッチ(DTMF)
10 	OFF	ON	OFF	ON	※将来用ですので選択しないで下さい
11 	ON	ON	OFF	ON	※将来用ですので選択しないで下さい
12 	OFF	OFF	ON	ON	※将来用ですので選択しないで下さい
13 	ON	OFF	ON	ON	※将来用ですので選択しないで下さい
14 	OFF	ON	ON	ON	※将来用ですので選択しないで下さい
15 	ON	ON	ON	ON	DTMF信号による設定

■7 各動作の個別解説

以降の解説で、

ONはショート（導通）、OFFはオープン（開放）を示します。

- ・ トーン信号入力は・・・CN6の7, 8番へ、
- ・ アンサーバック出力は・・・CN6の4, 5番から、
- ・ リレーON/OFF出力は・・・TERM1から、それぞれ行います。

◆標準的な10種類の動作

以下に標準的な10種類の動作(①～⑩)と対応するDIPスイッチの設定を示します

① DTMFで行う【ワンプッシュ動作】+ トーンアンサーバック

DTMF信号を検知している間のみ、DTMF信号に対応する制御出力をONします。

DTMF信号を検知していないときは、全ての制御出力がOFFになります。



ディップスイッチNo.0

(設定 OFF-OFF-OFF-OFF)

(有効キー)



表7-1 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1’	‘1’を検知している間のみONになり、「プーー」をアンサーバックします。	O1
‘2’	‘2’を検知している間のみONになり、「プープー」をアンサーバックします。	O2
‘3’	‘3’を検知している間のみONになり、「プププ」をアンサーバックします。	O3
‘4’	‘4’を検知している間のみONになり、「ププププ」をアンサーバックします。	O4

② DTMFで行う【ワンプッシュラッチ動作】+ トーンアンサーバック

検知したDTMF信号に対応する制御出力をONし、それ以外の制御出力をOFFします。



ディップスイッチNo.1

(設定 ON-OFF-OFF-OFF)

(有効キー)

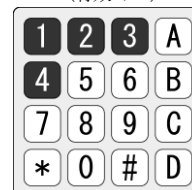


表7-2 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1’	‘1’を検知するとONになり、「プーー」をアンサーバックします。 ‘1’以外を検知するとOFFになります。	O1
‘2’	‘2’を検知するとONになり、「プープー」をアンサーバックします。 ‘2’以外を検知するとOFFになります。	O2
‘3’	‘3’を検知するとONになり、「プププ」をアンサーバックします。 ‘3’以外を検知するとOFFになります。	O3
‘4’	‘4’を検知するとONになり、「ププププ」をアンサーバックします。 ‘4’以外を検知するとOFFになります。	O4

③ DTMFで行う【メモリー照合ラッチ動作】 + トーンアンサーバック
 検知したDTMF信号の組み合わせで、制御出力のON/OFFを行いません。



ディップスイッチNo.2
 (設定 OFF-OFF-OFF-OFF)

(有効キー)



表7-3 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1*’ 又は ‘1#’	‘1*’を検知するとONになり、「プーー ビポ↑」をアンサーバックします。 ‘1#’を検知するとOFFになり、「プーー ビポ↓」をアンサーバックします。	O1
‘2*’ 又は ‘2#’	‘2*’を検知するとONになり、「プーー ビポ↑」をアンサーバックします。 ‘2#’を検知するとOFFになり、「プーー ビポ↓」をアンサーバックします。	O2
‘3*’ 又は ‘3#’	‘3*’を検知するとONになり、「プププ ビポ↑」をアンサーバックします。 ‘3#’を検知するとOFFになり、「プププ ビポ↓」をアンサーバックします。	O3
‘4*’ 又は ‘4#’	‘4*’を検知するとONになり、「ププププ ビポ↑」をアンサーバックします。 ‘4#’を検知するとOFFになり、「ププププ ビポ↓」をアンサーバックします。	O4

※DTMF信号‘1234’を検知すると制御出力のON/OFF状態を順にアンサーバックします。

④ DTMFで行う【メモリー照合ワンショット動作】 + トーンアンサーバック
 検知したDTMF信号の組み合わせで、制御出力を10秒間のみONします。



ディップスイッチNo.3
 (設定 ON-ON-OFF-OFF)

(有効キー)



表7-4 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1*’	‘1*’を検知するとONになり、「プーー」をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O1
‘2*’	‘2*’を検知するとONになり、「プーー」をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O2
‘3*’	‘3*’を検知するとONになり、「プーー」をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O3
‘4*’	‘4*’を検知するとONになり、「プププ」をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O4

⑤ DTMFで行う【メモリー照合ラッチ動作】 + DTMFアンサーバック
検知したDTMF信号の組み合わせで、制御出力のON/OFFを行いません。



ディップスイッチNo.4
(設定 OFF-OFF-ON-OFF)

(有効キー)



表7-5 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1*’ 又は ‘1#’	‘1*’を検知するとONになり、DTMF信号‘1*’をアンサーバックします。 ‘1#’を検知するとOFFになり、DTMF信号‘1#’をアンサーバックします。	O1
‘2*’ 又は ‘2#’	‘2*’を検知するとONになり、DTMF信号‘2*’をアンサーバックします。 ‘2#’を検知するとOFFになり、DTMF信号‘2#’をアンサーバックします。	O2
‘3*’ 又は ‘3#’	‘3*’を検知するとONになり、DTMF信号‘3*’をアンサーバックします。 ‘3#’を検知するとOFFになり、DTMF信号‘3#’をアンサーバックします。	O3
‘4*’ 又は ‘4#’	‘4*’を検知するとONになり、DTMF信号‘4*’をアンサーバックします。 ‘4#’を検知するとOFFになり、DTMF信号‘4#’をアンサーバックします。	O4

※DTMF信号‘1234’を検知すると制御出力のON/OFF状態を順にアンサーバックします。

⑥ DTMFで行う【メモリー照合ワンショット動作】 + DTMFアンサーバック
検知したDTMF信号の組み合わせで、制御出力を10秒間のみONします。



ディップスイッチNo.5
(設定 ON-OFF-ON-OFF)

(有効キー)



表7-6 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘1*’	‘1*’を検知するとONになり、DTMF信号‘1*’をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O1
‘2*’	‘2*’を検知するとONになり、DTMF信号‘2*’をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O2
‘3*’	‘3*’を検知するとONになり、DTMF信号‘3*’をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O3
‘4*’	‘4*’を検知するとONになり、DTMF信号‘4*’をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O4

⑦ FSKで行う【メモリー照合ラッチ動作】 + FSKアンサーバック
 復調したFSK信号の組み合わせで、制御出力のON/OFFを行ないます。

(有効キー)



ディップスイッチNo.6
 (設定 OFF-ON-ON-OFF)

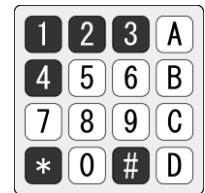


表7-7 TERM1の出力と動作の関係

CN6からの FSK入力	動作	リレー出力端子 TERM1
‘1*’ 又は ‘1#’	‘1*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘1*’ をアンサーバックします。 ‘1#’ を検知するとOFFになり、FSK信号 ‘1#’ をアンサーバックします。	O1
‘2*’ 又は ‘2#’	‘2*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘2*’ をアンサーバックします。 ‘2#’ を検知するとOFFになり、FSK信号 ‘2#’ をアンサーバックします。	O2
‘3*’ 又は ‘3#’	‘3*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘3*’ をアンサーバックします。 ‘3#’ を検知するとOFFになり、FSK信号 ‘3#’ をアンサーバックします。	O3
‘4*’ 又は ‘4#’	‘4*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘4*’ をアンサーバックします。 ‘4#’ を検知するとOFFになり、FSK信号 ‘4#’ をアンサーバックします。	O4

※FSK信号 ‘1234’ を検知すると制御出力のON/OFF状態を順にアンサーバックします。

⑧ FSKで行う【メモリー照合ワンショット動作】 + FSKアンサーバック
 復調したFSK信号の組み合わせで、制御出力を10秒間のみONします。

(有効キー)



ディップスイッチNo.7
 (設定 ON-ON-ON-OFF)



表7-8 TERM1の出力と動作の関係

CN6からの FSK入力	動作	リレー出力端子 TERM1
‘1*’	‘1*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘1*’ をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O1
‘2*’	‘2*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘2*’ をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O2
‘3*’	‘3*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘3*’ をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O3
‘4*’	‘4*’ を検知するとONになり、FSK信号 ‘4*’ をアンサーバックします。 10秒経過後OFFになります。	O4

⑨ DTMFで行う【ワンプッシュ動作】

DTMF信号を検知している間のみ、DTMF信号に対応する制御出力をONします。
DTMF信号を検知していないときは、全ての制御出力がOFFになります。



ディップスイッチNo.8
(設定 OFF-OFF-OFF-ON)

(有効キー)

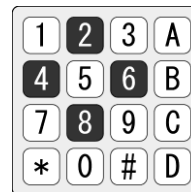


表7-9 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘2’	DTMF信号‘2’を検知している間のみONになります。	O1
‘4’	DTMF信号‘4’を検知している間のみONになります。	O2
‘6’	DTMF信号‘6’を検知している間のみONになります。	O3
‘8’	DTMF信号‘8’を検知している間のみONになります。	O4

⑩ DTMFで行う【ワンプッシュラッチ動作】

検知したDTMF信号に対応する制御出力をONし、それ以外の制御出力をOFFします。



ディップスイッチNo.9
(設定 ON-OFF-OFF-ON)

(有効キー)

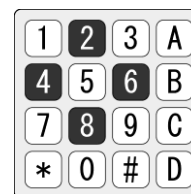


表7-10 TERM1の出力と動作の関係

CN6からのDTMF入力	動作	リレー出力端子TERM1
‘2’	‘2’を検知するとONになり、‘2’以外を検知するとOFFになります。	O1
‘4’	‘4’を検知するとONになり、‘4’以外を検知するとOFFになります。	O2
‘6’	‘6’を検知するとONになり、‘6’以外を検知するとOFFになります。	O3
‘8’	‘8’を検知するとONになり、‘8’以外を検知するとOFFになります。	O4

◆ディップスイッチNo.10 ~ No.14は選択しないで下さい。

◆DTMF信号による設定動作

DTMF信号で設定変更を行なうことができます。



ディップスイッチNo.15
(設定 ON-ON-ON-ON)

内容は ■各種設定 (14ページ) を参照してください。

■8 接続例

本ユニットは「有線接続による制御」、「電話回線による制御」、「無線接続による制御」があり、最大4個の機器のON/OFF制御が出来ます。

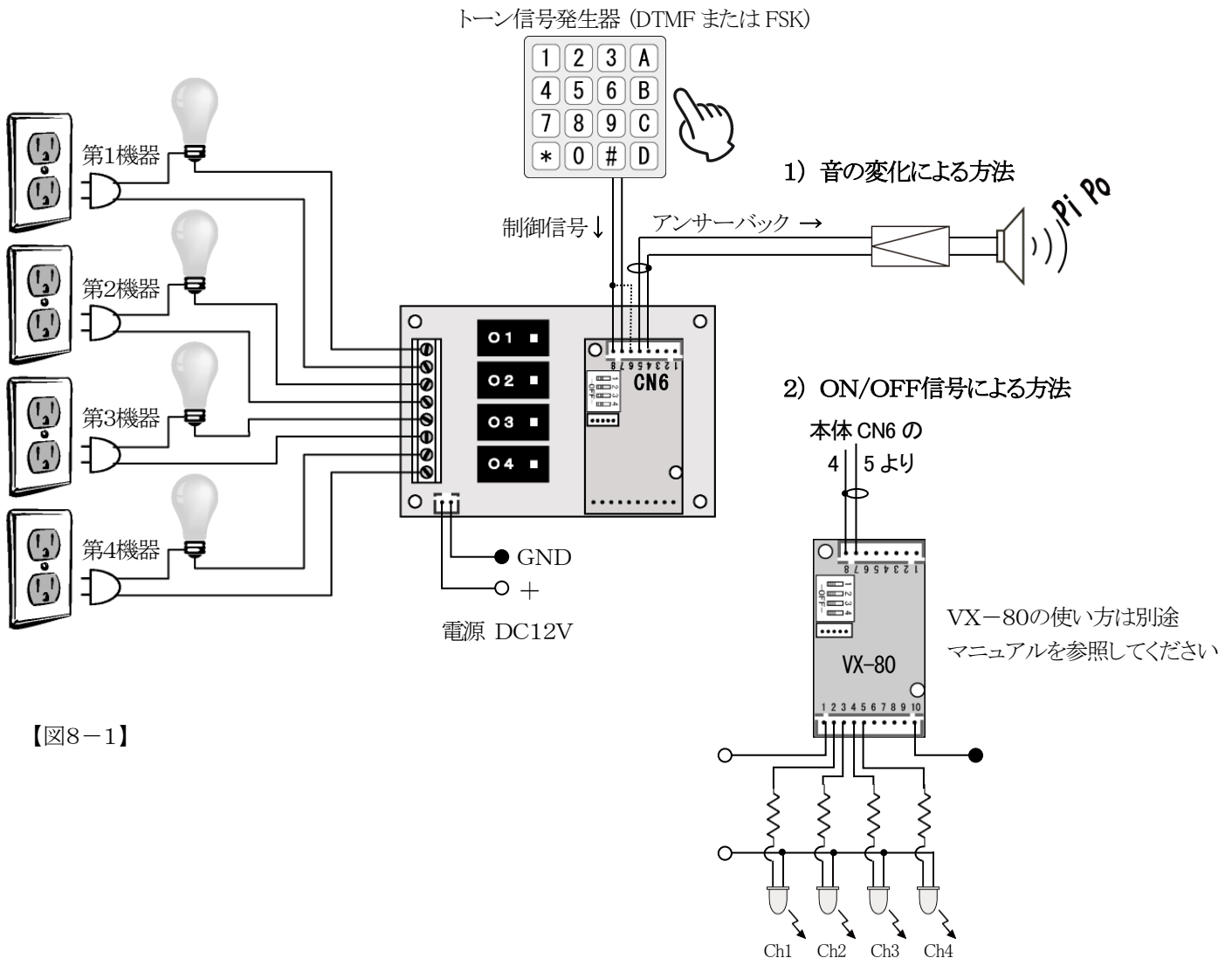
また操作側で、離れた場所の動作確認のため、アンサーバックも可能です。アンサーバックには音の変化を返送する方法と、ON/OFF信号(DTMFまたはFSK)を返送する方法があります。

◆ 有線によるON/OFF制御とアンサーバック

有線による制御は、【図8-1】のようにCN6より行います。

入力にはDTMF信号またはFSK信号を用います。

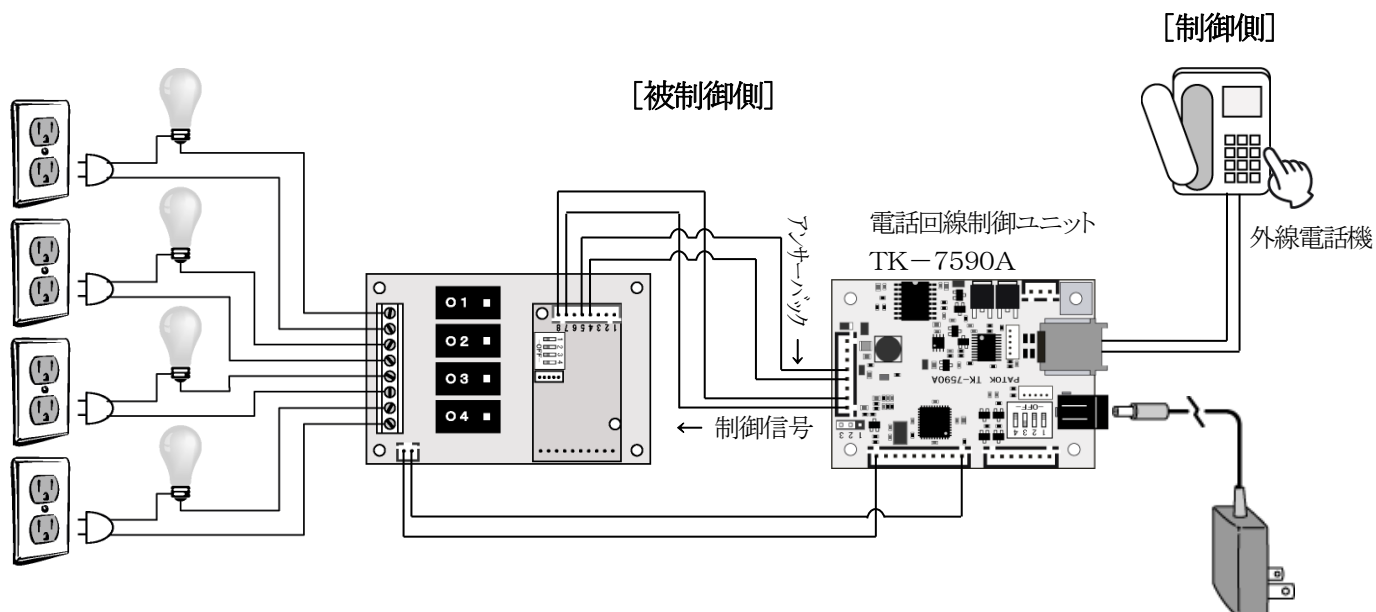
アンサーバックには、1) 音の変化による方法と、2) ON/OFF信号による方法があります。



電気製品の安全性を規定する法律にPSE「電気用品安全法」があります。本ユニットは一般的な電気製品には該当せずPSE対象外です。ACコンセント使用に当たっては安全性に配慮し、自己責任のもとにお願いします。

◆ 電話回線によるON/OFF制御とアンサーバック（DTMF制御のみ）

電話回線による制御は【図8-2】のように、電話回線制御ユニットを介して行います。入力はDTMF信号を用います。

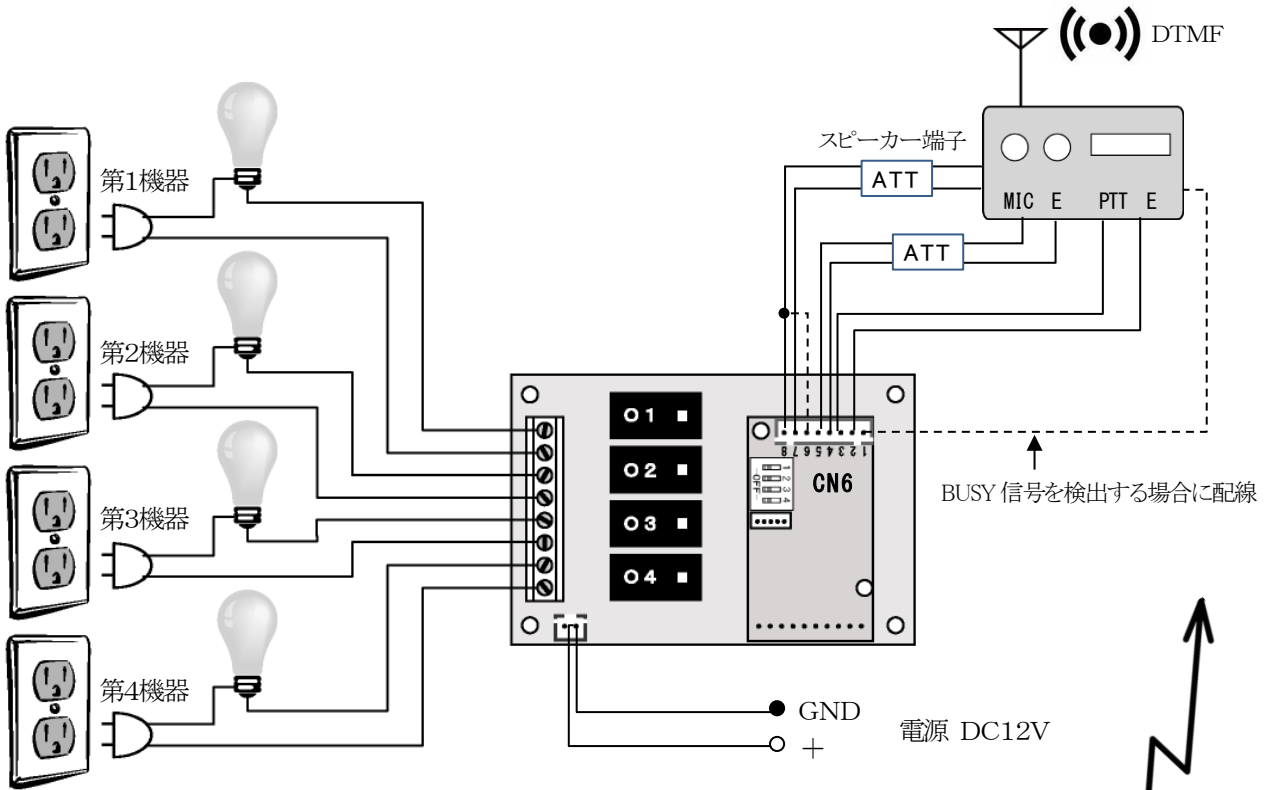


【図8-2】

◆ 無線によるON/OFF制御とアンサーバック（DTMF制御のみ）

無線による制御は、被制御側は【図8-3】のように、CN6への無線機接続で行います。
 また制御側は【図8-4】のようにDTMF発信機能付きのDTMF音送信にて行います。
 アンサーバックには、音の変化による方法と、ON/OFF信号による方法があります。

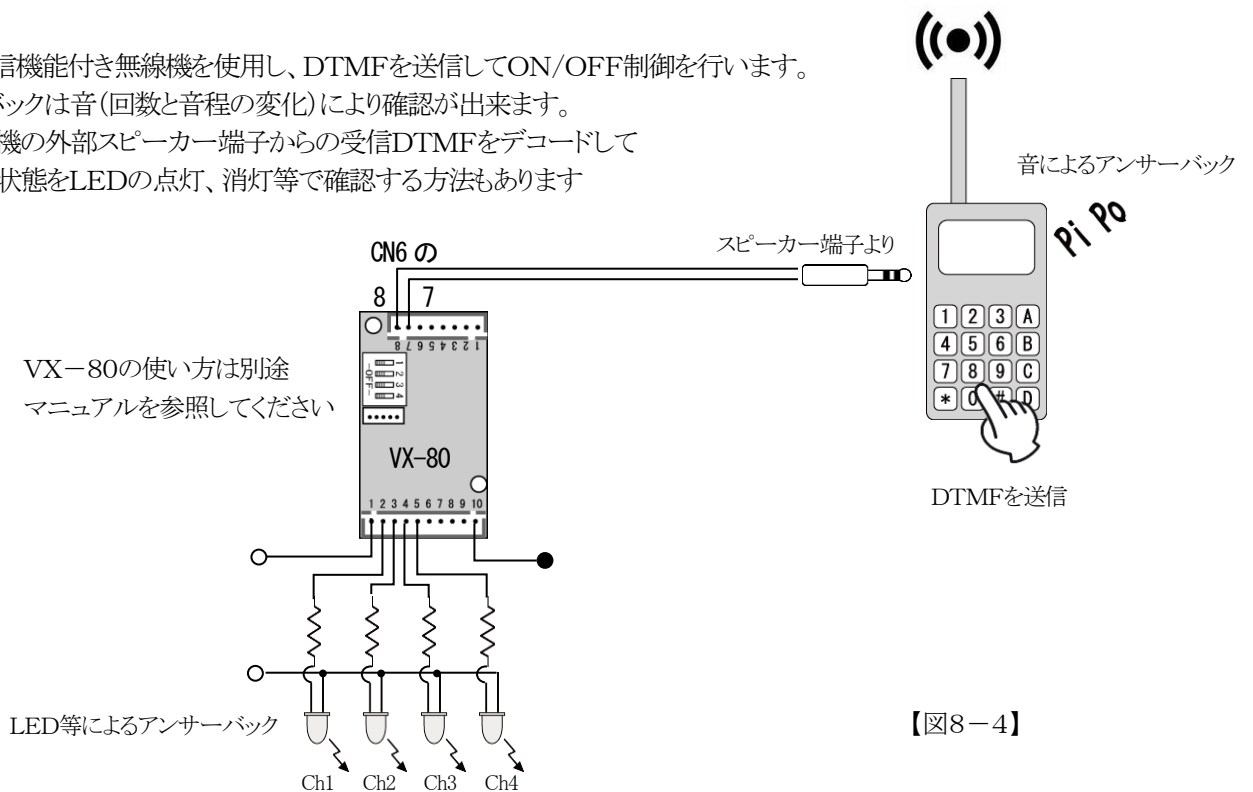
[被制御側]



【図8-3】

[制御側]

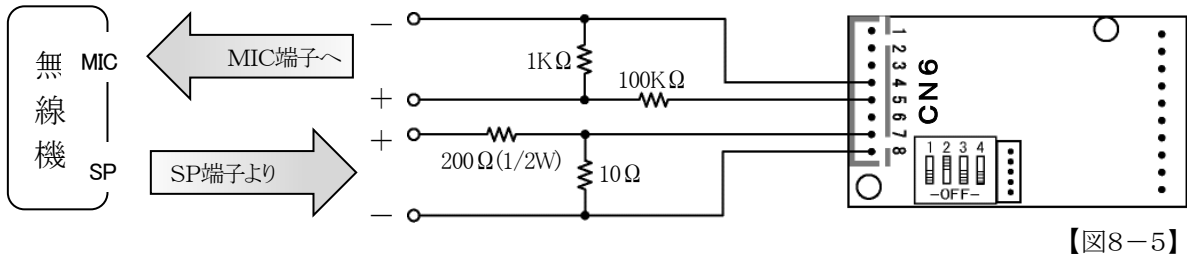
DTMF発信機能付き無線機を使用し、DTMFを送信してON/OFF制御を行います。
 アンサーバックは音(回数と音程の変化)により確認が出来ます。
 また、無線機の外部スピーカー端子からの受信DTMFをデコードして
 ON/OFF状態をLEDの点灯、消灯等で確認する方法もあります



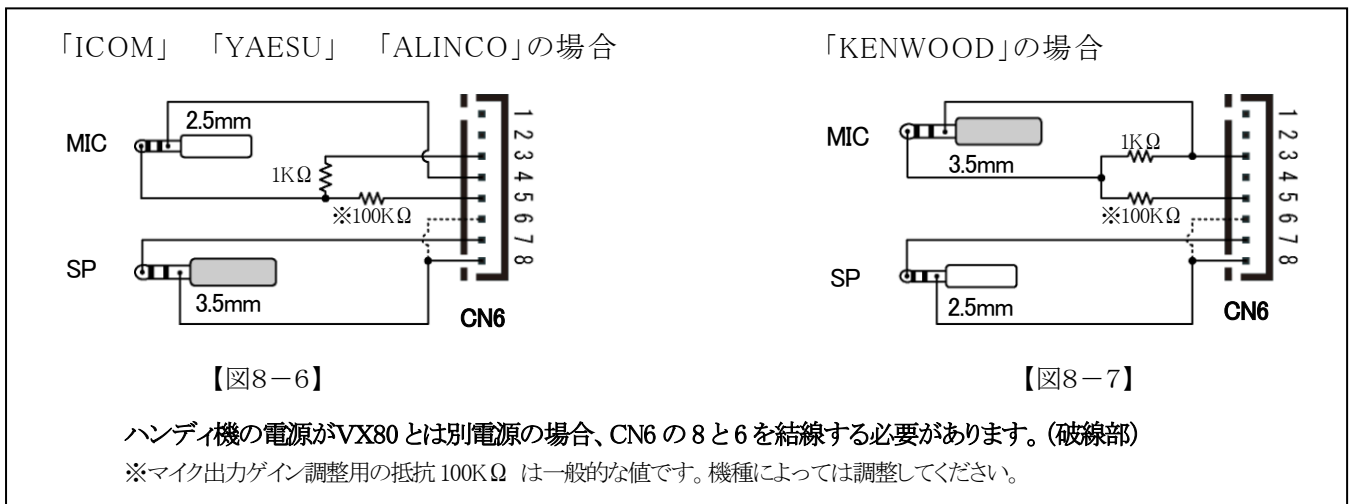
【図8-4】

本ユニットと無線機を接続する場合、【図8-5】の様にDTMFトーンの適正な入・出力のためアッテネータ回路を挿入する必要があります。

- VX-80へのトーン入力は無線機のスピーカー端子からの信号音を、アッテネータを介してCN6の7番8番に行います。感度は無線機の音量調整で行います。
- VX-80からのトーン出力は、CN6の5番4番からアッテネータを介して無線機のマイク端子へ行います。



ハンディ無線機で行う場合、メーカー別の一般的な配線を示します

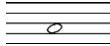
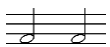
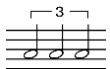





■ 9 アンサーバックについて

本ユニットには、アンサーバックの機能があり、リレーのON/OFF状態を「送り手側」で確認することが可能です。アンサーバックには3通りのパターンがあります。

① 音の回数と音程の変化により直接判定できるパターン(DTMF操作に限る)

「回数」で該当リレーを、「音程」で ON/OFF 区別を示します

動作リレーNo.を 鳴音回数で示す	{	出力O1 を確認時のアンサーバック 「プーー」 (1回)	
		出力O2 を確認時のアンサーバック 「プープー」 (2回)	
		出力O3 を確認時のアンサーバック 「プ プ プ」 (3回)	
		出力O4 を確認時のアンサーバック 「ププププ」 (4回)	
ONN/OFF 状態を音程変化 で示す	{	ONを確認時のアンサーバック 「ピポ ↑」 (尻上り)	
		OFFを確認時のアンサーバック 「ピポ ↓」 (尻下り)	

例 1 【表6-1】 に於ける「ディップスイッチ設定」 No.0、No.1、No.3 の場合（動作例 ①、②、④）

- 1 とすれば出力O1がONになり 「プーー」 (1回) のアンサーバックが得られます。
- 2 とすれば出力O2がONになり 「プープー」 (2回) のアンサーバックが得られます。
- 3 とすれば出力O3がONになり 「プ プ プ」 (3回) のアンサーバックが得られます。
- 4 とすれば出力O4がONになり 「ププププ」 (4回) のアンサーバックが得られます。

例 2 【表6-1】 に於ける「ディップスイッチ設定」 No.2 の場合（動作例 ③）

- 1 * とすれば出力O1がONになり 「プーー ピポ ↑」 のアンサーバックが得られます。
- 1 # とすれば出力O1がOFFになり 「プーー ピポ ↓」 のアンサーバックが得られます。

② DTMF信号によるパターン

例 3 【表6-1】 に於ける「ディップスイッチ設定」 No.4、No.5 の場合（動作例 ⑤、⑥）

DTMF信号をアンサーバックします。

③ FSK信号によるパターン

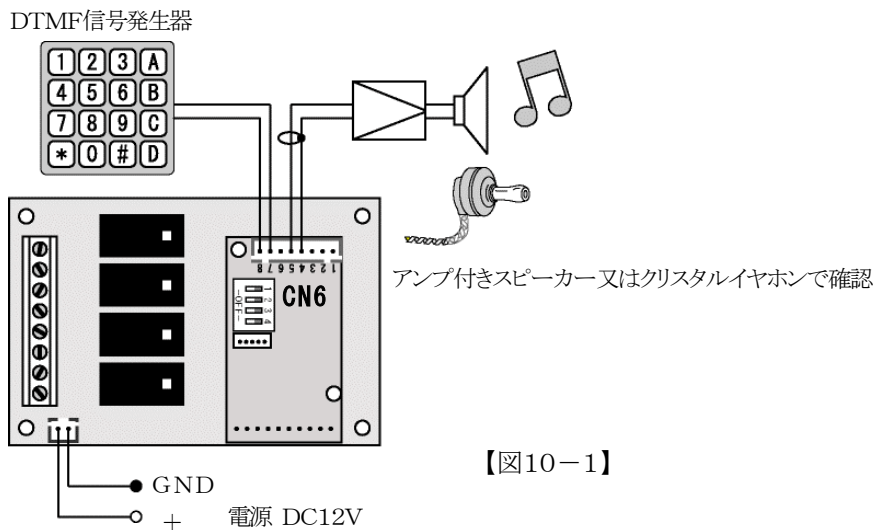
例 4 【表6-1】 に於ける「ディップスイッチ設定」 No.6、No.7 の場合（動作例 ⑦、⑧）

FSK信号をアンサーバックします。

※ ①、②、③ いずれも 1 2 3 4 とすれば、4チャンネル分(出力O1~O4)の状態を一括でアンサーバックします

■ 10 各種設定

DTMF信号による設定(ディップスイッチNo.15)では、「信号の組み合わせ」や「動作時間」等をカスタマイズできます。設定を行なうには、「0」～「9」および「*」と「#」の組み合わせコマンドを使用します。
※全てのコマンド操作は、「# 9 1 *」を行なわない限り、電源を切ると失われます。



【図10-1】の通りCN6の7, 8番ピンへDTMFを入力、4, 5番ピンから確認音を出力します。

- ・コマンド待機中は、「プルプル」音出力されます。
- ・コマンド入力有効の間は、無音になります。
- ・コマンドの受付が正常に完了すると、
「ピー」音出力され、コマンド待機中に戻ります。
- ・コマンドの入力にミスがあるか、5秒間をおくと、
「ブブブブ」音出力され、コマンド待機中に戻ります。

◆「信号の組み合わせ」を変更する

メモリー照合ラッチ (DTMF/F SK) やメモリー照合ワンショット (DTMF/F SK) で行う信号の組合せは、全て同じメモリーを使用しています。

出荷時の信号の組合せは、以下の表の通りですが、対応するメモリー番号をコマンド入力することで、変更できます。

設定コマンド

g g e e n n . . . n (g g :メモリー番号、e e :信号の組み合わせ桁数、n n . . . n :信号の組み合わせ)

表10-1 信号の組み合わせと対応するメモリー番号 (制御出力のON/OFF)

メモリー番号	ON信号の組み合わせ	メモリー番号	OFF信号の組み合わせ
01	1*	17	1#
02	2*	18	2#
03	3*	19	3#
04	4*	20	4#

表10-2 信号の組み合わせと対応するメモリー番号 (ON/OFF状態のアンサーバック)

メモリー番号	ON信号の組み合わせ	メモリー番号	OFF信号の組み合わせ
05	1*	21	1#
06	2*	22	2#
07	3*	23	3#
08	4*	24	4#

※DTMF/F SKアンサーバックの時のみ参照します。

表10-3 信号の組み合わせと対応するメモリー番号 (ON/OFF状態のアンサーバックの起動)

メモリー番号	アンサーバックの起動信号の組み合わせ	対応する制御出力
33	1234	TERM1 O1
34	1234	TERM1 O2
35	1234	TERM1 O3
36	1234	TERM1 O4

例10-1) メモリー番号01の「1*」を「#11」に、メモリー番号17の「1#」を「#10」に変更する場合
 「0103#11」を入力し、ON信号の組み合わせを「#11」に変更します。
 「1703#10」を入力し、OFF信号の組み合わせを「#10」に変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

例10-2) メモリー番号02の「2*」を「1234」に、メモリー番号18の「2#」を「#」に変更する場合
 「02041234」を入力し、ON信号の組み合わせを「1234」に変更します。
 「1801#」を入力し、OFF信号の組み合わせを「#」に変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

例10-3) メモリー番号19の「3#」を、無しに変更する場合
 「1900」を入力し、OFF信号の組み合わせを無しに変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

◆ 「ワンショット時間」を変更する

メモリー照合ワンショット（DTMF／FSK）で、ON時間は対応する制御時間メモリー番号をコマンド入力することで変更できます。

設定コマンド
#47dduuuu* (dd：制御時間メモリー番号、uuuuu：制御時間)

表10-4 制御出力に対応する制御時間メモリー番号

制御時間メモリー番号	ワンショット時間 [秒]	対応する制御出力
00	10	TERM1のO1
01	10	TERM1のO2
02	10	TERM1のO3
03	10	TERM1のO4

例10-4) 制御時間メモリー番号00の10秒を、30秒に変更する場合
 「#470030*」を入力し、ワンショット時間を30秒に変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

例10-5) 制御時間メモリー番号01の10秒を、3分（180秒）に変更する場合
 「#4701180*」を入力し、ワンショット時間を3分に変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

◆ 「時間メモリー」を変更する

アンサーバックは、状態変化の検知後、0.2秒間BUSY（信号出力遅延入力）を監視し、オープン（ハイレベル）が継続すれば、PTT（信号出力中出力）をGND（0V）レベルにし、さらに1秒経過後に、信号の発生を行なうようになっています。

BUSY（信号出力遅延入力）の監視時間や、PTT（信号出力中出力）をGND（0V）レベルにした後の信号の発生遅延時間設定は、対応する時間メモリーをコマンド入力することで、変更できます。

※監視や遅延時間は、通信設備の応答時間を考慮した上で行なって下さい。
 また、監視や遅延時間は、0.04秒以上にして下さい。

設定コマンド
#41dduuuu* (dd：時間メモリー番号、uuuuu：監視や遅延時間)

表10-5 制御入力に対応する制御入力状態変化応答時間番号

時間メモリー番号	監視や遅延時間 (×0.01秒)	用途
00	20	BUSY（信号出力遅延入力）の監視時間
01	100	PTT（信号出力中出力）をGNDレベルにした後の、信号の発生遅延時間

例10-6) 時間メモリー番号00の0.2秒を0.1秒に変更し、時間メモリー番号01の1秒を0.5秒に変更する場合
 「#410010*」を入力し、BUSY（信号出力遅延入力）の監視時間を0.1秒に変更します。
 「#410150*」を入力し、信号の発生遅延時間を0.5秒に変更します。
 「#91*」を入力し、設定を保存します。

[メモ]

[メモ]

P A T O K

松本無線パーツ株式会社岩国

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町4-14-24

TEL(0827)24-0081(代)

FAX(0827)24-1444

2020/8 改定